

物部川清流保全推進協議会

第16回代かき濁水対策を進めるWG 要旨

日時：令和6年1月19日（金）13:30～15:00

場所：高知県立野市青少年センター 会議室C（香南市野市町西野）

参加者数：18名

参加団体等：JA高知県（香美営農経済センター、南国営農経済センター）、物部川漁業協同組合、物部川21世紀の森と水の会、山田堰井筋土地改良区、物部川土地改良区連合、物部川清流保全推進協議会委員、高知河川国道事務所物部川出張所、流域3市（南国市、香南市、香美市）、高知県（環境農業推進課、中央東農業振興センター、中央東土木事務所）、事務局（高知県自然共生課）

1 議題

- (1) 2023年春の濁度調査結果について（報告）
- (2) 濁水対策（浅水代かきの普及啓発方法）等について（協議）
- (3) その他情報共有

2 資料

資料1 物部川濁度調査結果（2023年春調査）

資料2 2024年春の濁度調査等について

資料3 濁水対策（浅水代かきの普及啓発方法）等の協議

参考資料1～5

物部川流域での広報掲載の事例、啓発チラシ、浅水代かき実践会、他の流域の取組（広見川濁水軽減対策について、令和5年度濁水実証実験結果）

3 協議結果(今後の取組の方向性等)

- (1) 濁度調査は引き続き実施
(3～4月に春調査、週1回、例年どおりローテーションを組んで行う)
- (2) 浅水代かき普及啓発広報は、ラジオや広報誌に加えて、市のLINEや防災無線、地元ケーブルテレビ局の活用などを検討していく
- (3) 「浅水代かき普及モデル地区」としてせせらぎ水路付近を設定。令和6年度のWG会議で以下の取組について協議・活動し、皆で力を合わせて濁水軽減につなげていく
 - ・キャッチフレーズを印刷した止水板の内容・規格等を検討し、制作。水稻農家に配布
 - ・農業構造改善ラインの周辺に啓発看板を設置する。場所や啓発内容を検討し、制作（協議会として予算を持っていないため、必要な経費については清流保全パートナーズ協定企業の寄附金を活用することなどを検討）

【議題(1)(2)の概要】

事務局	<p>1. 2023年春の濁度調査結果について(報告)</p> <p>・調査結果概要</p> <p>令和5年3月から4月までに計14回、5地点(山田堰、高川原、せせらぎ水路、本川、後川)にて濁度調査を実施。</p> <p>いずれの地点も水入れ前の時期と比較すると代かき期、田植え後の濁度は、高い。</p> <p>前回調査と比較し濁度が高い原因は、大桁の降水量が多かったことがあげられるが、</p>
-----	--

	<p>このうち、せせらぎ水路については、農業地帯を通過することによる影響が考えられる。</p>
<p>主な意見</p>	<p>2. 2024 年春の濁度調査等について(協議)</p> <p>・事務局提案内容 調査回数を週 2 回から 1 回に変更。 必要なデータは代かき時期における濁度と整理し、今後も春調査を実施。</p> <p>○調査結果資料と説明を聞いても、対策が必要なかがわからない。事務局の見解を聞かせてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>→ (事務局)</p> <p>代かき期前後で濁度に差があることは明白で、農業者に対する啓発がさらに必要である。</p> <p>昨年度のワーキングで出た意見の中に、農業者が浅水代かきを実施する割合のデータを取得する方法等について協議をしたいとの意見があった。他の河川（広見川）では、愛媛県側の農業者の 90%以上が浅水代かきに取り組んでいるものの濁度の改善には課題があり、さらなる啓発が必要という状況。</p> <p>どのような対策が取れるか皆で考えたい。</p>
<p>主な意見</p>	<p>○濁水には 2 つのパターン（長期濁水、短期濁水）がある中で、短期濁水についてまず取り組もうということで、本ワーキングが立ち上げられた経緯あり。</p> <p>調査結果はその時期の水量などでも濁り具合に違いが出てくるため、参考情報として捉え、真に大切な事柄は、濁りに対しどのような具体策を講じていくのかにある。関係する皆が認識し、心を一つにし取り組んでいくことが大事だ。</p> <p>○水の管理が十分でない代かきの水が濁水として全部漏れて流れている、という光景がある。</p> <p>○地形的にも香南市側は堤防のないところは濁水が全部物部川に流れてくるため、目立つ状況になっている。</p> <p>○昔自分たちは先人から、田んぼから土を流すなど習った。土を流すと勿体ない。土が流れた後は元の田んぼに戻すのに何年かかるかなどの指導も受けた。今の人は関係なしに流しているように思う。</p> <p>◎協議結果（今後の取組の方向性等） 濁度調査は引き続き実施。 （3～4月に春調査、週 1 回、例年どおりローテーションを組んで行う）</p> <p>3. 濁水対策(浅水代かきの普及啓発方法)等について(協議)</p> <p>(1) 浅水代かきの普及啓発広報</p> <p>○啓発活動の担い手として、情報発信手段を多く持つ行政の役割は高いと思う。</p> <p>○従来行ってきたラジオや広報誌に加えて、市の LINE や防災無線、地元ケーブルテレビ局の活用などを検討していきたい（3 市）</p>

<p>主な意見</p>	<p>○防災無線は、皆畑仕事などの時によく聞いていると思うので、有効な手段。耳に残るキャッチコピー、キャッチフレーズを添えて流せたら、伝わりやすい。</p> <p>○防災無線を流すことの善し悪しは人による。川干で水を止める時にもうるさいという人がいたり、自分が関係ないと思っている内容をうるさがったりと難しい。ケーブルテレビを有効に使う方法もあると良い。</p> <p>○特定の地区にだけ集中的に放送する方法もある。</p> <p>○代かき時期だけでなく通年で、物部川や水の大切さについて農家や市民の目に触れる、意識していただけるような広報のあり方も検討してはどうか。(複数)</p> <p>具体例 物部川流域ふるさと交流推進協議会が一昨年に制作した「物部川の啓発動画」の映像を市の庁舎やあちらこちらで繰り返し流し、市民の目に触れるようにする</p> <p>○これまでは農協が中心となり浅水代かき実践会などを企画・実施してきたが、今回の会議から、両土地改良区など水を管理する人達が参画しているため、活動内容にさらに広がりが出てくるのではないか。</p> <p>○水稻農家にチラシを配布したり、実践として足りないものがないかなどを勉強し知恵をお借りしながら出来ることはやっていく。</p> <p>○水稻農家限定という形でなく、他の作物への影響なども含めた啓蒙をするのであれば、市とも啓発内容を協議していくことも出来るのではと思う。</p> <p>○県の農業部局では、農協関係者の会議などの場面で周知している。</p> <p>○水がどこからやってきてどこへ行くのかに気づいて意識してもらえるような啓発内容であれば、効果が違ってくるのではないか。</p> <p>○行政の立場の中でも、指導なり皆を引っ張っていくような事柄をやってほしい。</p> <p>○地道に継続した啓発を続けることを通じて、10年先、20年先に、昔と比べ随分良くなったと思える世界を皆で目指さなければならない。色々な形で取り組んでいけると良い。</p> <p>◎協議結果（今後の取組の方向性等） 浅水代かき普及啓発広報は、ラジオや広報誌に加えて、市のLINEや防災無線、地元ケーブルテレビ局の活用などを検討していく。</p> <p>(2) 浅水代かきで使用する止水板、啓発看板など</p> <p>○大規模に経営している場所では、試行的にスマート農業を導入し、水量計算で自動で水を止めるなど、水の管理が出来ない人でもGPS機能を使って水をオーバーフローさせない方法や満杯を知らせる機能などをテストしていると聞く。将来的には多少なり防御ができてくるのではないか。</p>
-------------	--

<p>主な意見</p>	<p>○以前、物部川 21 世紀で土木系の助成をいただき「止水板」を制作し、水稻農家に配布したことがある。使用すれば効果があったと思うが、止水板の寸法が合わず使えなかったという人もいた。その際、農家から治水についての要望も受けた。こういった課題も克服しながら協議会として再度やってみるのも良い。</p>
<p>事務局</p>	<p>→ (事務局)</p> <p>他の流域の参考事例として、資料 3 の欄外にも記載のとおり、流域自治体が止水板を制作し無料で農家に配布している。また、愛媛県側でも広見川等農業排水対策協議会が令和 4 年度に止水板 200 枚と啓発チラシを作成しセットで農家に配布している。</p> <p>参考：止水板例文（広見川の場合） 「私達は濁水の防止に取り組んでいます 広見川等農業排水対策協議会」 「土や肥料がもったいない ストップ！濁水！ 水田排水口用止水板 愛媛県・広見川等農業排水対策協議会」</p> <p>協議会事務局としての当課の予算は、条例に基づく清流保全計画を推進するための協議の場の運営経費のみ（基本的に各種活動は流域自治体や流域団体等が主体となり県は後方支援するという立ち位置）であるため、金銭対策としては、高知県清流保全パートナーズ協定企業からの寄附金を流域で申請したり、物部川ふるさと交流推進協議会から助成いただく方法等が考えられる。</p> <p>この他、各市でも複数の部局・分野で何らかの補助金なり予算支出が可能かどうかを調べることもお願いしたい。</p>
<p>主な意見</p>	<p>○止水板を配布したものの溝のサイズと合わなかったという話は、例えば、圃場整備をやっていく中で止水板に合う溝にしてもらう相談も出来るのではないかな。</p> <p>○相談の際には連携が必要。水路についてのお願いの話を誰かが持っていく時は、円滑に話が進むよう、流域自治体からも議論に関する情報を入れておくなどすることに意義がある。</p> <p>○全体で広範囲に行うのは大変なので、協議会としてモデル的にスポットを決め、集中的にやれることを考え取り組んでみるなど、色々なやり方がありそう。</p> <p>○過去の農業構造改善の啓発看板では、農地ではない場所に看板をかけた。協議会で、深淵や父養寺ラインを試験的に取り組んでみてはどうか。せせらぎ水路は必ず農業排水が流れてくるので一目瞭然。ここでの広報を強化すると良い。</p> <p>○一度思い切って最初の取組としてせせらぎ水路の関係する部分でやることを考えてみないかな。</p>
<p>事務局</p>	<p>→ (事務局)</p> <p>せせらぎ水路のところで濁度調査もしており、農業の影響があることもわかっているため、今後この地区での対策をモデル的にやる方向で、来年度は出来ればワーキングを上半期にも開催して、止水板や看板等の製作、配布方法等について皆で協議していきたいがよろしいかな。</p>

<p>主な意見</p>	<p>○ぜひやりましょう。農家の人にチラシを配ったり総代さんに話を持って行くことは自分たちが出来ると思う。看板を立てるなどは他の方をお願いしたい。</p> <p>○確かにせせらぎ水路の出口にはアユが溜まったり、ところどころ堰の直下で濁水の影響も大きい場所なので、重点的にやることに賛成する。 皆で目に見える形のものを作り、将来的に広げていくのも一つの手かと思う。</p> <p>○せせらぎ水路付近の問題の歴史は古く、以前には国土交通省の方に協力を願って濁水対策をしたこともあったが、今やそういったことも改善につながらないところまできている。元を絶たないと効果はあがらないので、こういう会で1つでも皆で協力してやってみることが大事。</p> <p>○事業主体がどこであるとか、お金のことも今後詰めていかなければならない。</p> <p>○自分たちの河川管理区域内であれば、看板を貼り付けるためのブロックの提供や場所の提供に協力はできる。重いので持ち運びは重機などが必要だが、風で飛ぶことはない。</p> <p>○看板はぜひやってください。全員でやりましょう。農林部署の協力もお願いする。</p> <p>◎協議結果（今後の取組の方向性等） 「浅水代かき普及モデル地区」としてせせらぎ水路付近を設定。令和6年度のWG会議で具体策を協議・活動し、皆で力を合わせて濁水軽減につなげていく。</p>
-------------	---

【その他情報共有】

<p>共有内容</p>	<p>(1)工業用水にかかる対策について</p> <p>○地下水涵養として、県の依頼で市が工業用水の保全として農家に指導しているが、水を満杯にする農家が大多数の中、大風の時にその水が物部川まで流れていたため、市に農家への指導をお願いしたことがある。できれば、市やJAだけでなく、県も動いてほしい。工業用水で水が足りないというからやっている取組ですから。</p> <p>→ ※発言内容について香南市及び県の関係部署に共有します。（事務局）</p> <p>(2)濁りの発生源の追跡について</p> <p>○物部川右岸側で農期中に濁りがひどい時、市の上下水道局職員と水路の流れを調べた。これまでは地上を辿っても水が見えなくなり不明なことが多かったが、本来国分川や土居川の方に流れていくようなものが、地下を通過して物部川へ流入している可能性を知り、発生源を何となく推定できた。</p> <p>→（市） 関係する部署に状況確認する。</p>
-------------	---

閉会